

2-6 課題の整理

- ・現況の整理や市民アンケート調査、第2次国東市総合計画に示された潜在力となる資源及び基本課題を踏まえて、都市づくりにあたって対応すべき課題を整理します。
- ・都市づくりの課題について、以下の4つの視点に沿って整理します。

視点① 自然・歴史・文化

(現状整理)

- ・半島固有の半円形の市域と、中央山岳地から外周の海岸線に伸びる放射状の尾根筋、谷筋からなる地形が、土地利用、交通体系、地域社会と密接につながっている。
- ・固有の自然に育まれてきた歴史・文化が全体となって国東のかけがえのない資源・資産となっている。



(課題)

- 固有の自然・歴史・文化は、本市の市民生活、都市活動、景観等の基盤となるものであり、これを未来へ向けて大切に保全を行っていくことが必要。
- 貴重な資源は、同時に市の特色、魅力であり、観光の資源としてまた市民のレクリエーションや学習の場としての活用に向けた整備が必要。

視点② 都市構造

(現状整理)

- ・海岸線に沿った国道沿い市街地や大規模集落が形成され、内陸部は山岳地から放射状に伸びる谷筋に帯状に形成された集落より構成される。
- ・中心的な市街地は国東地域の鶴川・田深周辺に形成されてきたが、中心商業地については不振が続いている。
- ・空港周辺地域では大規模工場の立地や宅地開発、道路環境の整備などにより、都市機能の集積が進んでいる。
- ・その他の沿岸市街地、大規模集落及び内陸部の集落では、人口、産業が停滞傾向にある。



(課題)

- 国東中心部については、新市庁舎の建設を始め様々な都市機能の集積が進んでおり、魅力的な市街地として市民が利用できる拠点としての整備が必要。
- 空港周辺地域については、良好な交通条件や新たな都市機能集積を背景とした都市化傾向を踏まえ、農業や県立自然公園との調和に向けて適切な土地利用コントロールが必要。
- その他の沿岸市街地や内陸部集落にあっては、厳しい社会環境のなかで持続していく方向についての模索が必要であり、国見地域におけるアート・工芸・交流に向けた取組み強化、国東固有の資源を活かした観光、世界農業遺産を活用した体験・交流の場の整備などの取組みの促進が必要。

視点③ 定住環境

(現状整理)

- 人口が少子高齢化をとめないながら減少傾向が深刻化しており、定住人口の増加に向けた対応が本市の優先課題となっている。
- 大規模工場が立地し流入就業者も多い反面、農業や商業など既存産業の停滞傾向がみられる。
- 公共施設や商業施設、供給処理施設等の生活環境施設は、沿岸の平地部を中心に配置、整備が行われているが、内陸部等では整備が遅れた地域も分布する。



(課題)

- 人口の定着を促進するために、大規模工場立地にとまなう流入人口の定住促進、既存産業の活性化と観光を柱とする新たな産業の育成が必要。
- 定住化を促進するため良好な生活環境を備えた住宅地の確保が必要。特に国東中心部や空港周辺地域については、人口の定着を促進する区域として必要な公共施設整備や供給処理施設の維持保全が必要。
- その他の地域では、人口減少にとまなう厳しい本市の財政状況であることを踏まえながら、コミュニティの持続を支える施設としての利活用を図っていくことが必要。
- 上・下水道の未整備の地域にあっては地域特性に応じた対応が必要。

視点④ 交通環境

(現状整理)

- 国道 213 号及び県道、市道オレンジロードにより基本的な道路網が形成されている。
- 公共交通は、路線バス、コミュニティバス・タクシーにより構成され、路線バスは、国道を經由して大分・別府や周辺の都市間を結ぶ路線が運行されている。
- 地域内の路線バスは、谷筋に沿った県道・市道を經由したルートが設定されており、路線バスの運行がない区域ではコミュニティバス・タクシーが運行されている。



(課題)

- 国道は、都市活動の基幹道路であり、交通の円滑化、良好な沿道景観形成、安全な歩行空間の確保などが必要。
- 県道は主として沿岸部から山間部を経て隣接市へ至るルートを経由しており、交通機能のほか山間部の集落環境の基盤、観光・交流の基盤等の役割が大きく、その機能の向上が必要。
- 公共交通は、利用ニーズに必ずしも適合していない場合があるが、今後高齢者や通勤通学者の移動手段としての重要性が高まることから、合理的な運行を行っていくことが必要。